

別紙

温室効果ガス排出削減計画

氏名	(法人にあつては名称) 水島合金鉄株式会社		住所	(法人にあつては主たる事業所の所在地) 〒712-8513 倉敷市水島川崎通1-1	
本票作成	部署名：製造部				
主たる業種	分類コード	2 2	業種名：鉄鋼業（フェロアロイ製造業）		
事業の概要	マンガン系合金鉄の製造販売・窒化硼素の製造販売				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	水島合金鉄本社工場		倉敷市水島川崎通1-1	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input checked="" type="checkbox"/> ③CO <sub>2</sub> 換算3,000t以上 (●工場等の数                      1    所                      ●車両台数 (②該当の場合)                      台)				

計画期間	平成22年度                      ~                      平成26年度                      ( 5 箇年度)								
削減目標	いずれかを選択	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	目標削減率 2.0 %	目標区分	20%以上	20~15%	15~10%	10~5%	5%未満
		<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準							
温室効果ガス排出量	基準年度 (平成21年度)			目標年度 (平成26年度)					
	261,483 t CO <sub>2</sub>			344,000 t CO <sub>2</sub>					
基準年度の主な工場等の排出量	番号	工場等の名称		基準年度 (平成21年度) の排出量					
	①	水島合金鉄本社工場		261,483 t CO <sub>2</sub>					
				t CO <sub>2</sub>					
				t CO <sub>2</sub>					
				t CO <sub>2</sub>					
				t CO <sub>2</sub>					

※ 「計画期間」欄には、5箇年度以内で特定事業者が定める期間を記入する。

(原単位基準の削減目標を選択した場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 換算生産量(t)・・・主要設備のSF炉のエネルギー使用量を基準にして、その他の設備の生産量をエネルギー使用量で換算する	原単位当たり排出量	
		基準年度	目標年度
		2,123 kg CO <sub>2</sub> / ( t )	2,080 kg CO <sub>2</sub> / ( t )

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値 (                      年度)	達成率(%)
指標の状況				

【目標削減率設定の基本的な考え方】

当社主要設備であるフェロマンガン製錬炉は操業開始から25年が経過しているが、平成24年末を目処に改修を行う。  
エネルギー効率高い機器を導入すると共に、高温熱風炉を採用することにより、コークス消費原単位を低減し、CO<sub>2</sub>排出原単位を低減させる。

**【目標削減率達成のための推進体制】**

推進体制：エネルギー管理統括者(工場長)→エネルギー企画推進者→エネルギー管理士→各部署  
 環境マネジメントシステム：平成18年認証取得

**【排出量削減のためのこれまでの主な取組】**

工場等の名称	取組内容
水島合金鉄本社工場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポンプ更新時にエネルギー効率の高いポンプを採用。</li> <li>・空調、照明機器の運転方法の管理強化</li> <li>・集塵設備等不要時の回転数低下</li> </ul>

**【計画期間中に目標削減率を達成するために実施する措置】**

工場等の名称	措置内容
水島合金鉄 堅型精錬炉 (SF炉)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェロマンガソ製錬炉の高温送風化によるコークス原単位削減</li> <li>・フェロマンガソ製錬炉の更新設備への高効率機器（電動機、ポンプ、変圧器等）の採用</li> <li>・フェロマンガソ製錬炉の日常運転管理強化による省エネ</li> <li>・設備トラブル防止によるエネルギー消費原単位の削減</li> <li>・照明器具の省エネ器具への転換推進</li> <li>・空調、照明運転の日常管理の強化</li> </ul>

**【森林保全等吸収源対策への取組計画】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【再生可能エネルギーの導入計画】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【その他特記事項】**

・リーマンショックの影響による世界経済の落ち込みを受け、当社も30%程度の大減産を行った結果、基準年度（平成21年度）のCO2排出量は大幅に低下した。  
 ・フェロマンガソ製錬炉のオフガスであるSFガスは大部分を他社へ販売している。フェロマンガソ製錬炉の改修により、コークス原単位を削減させるが、それに伴いSFガス発生量も減少する。SFガスはCO2排出係数が大きいですが、SFガスの販売先においてSFガスの代替としてCO2排出係数の小さい重油等への使用が可能となることから、当社単独のCO2排出原単位は2%の削減にとどまるが、販売先まで含めた総合CO2排出原単位では8.5%の削減となる。